



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	中国の国境地域における開発プロジェクトと農民意識 : 遼寧省の「興辺富民プロジェクト」を事例として
Author(s)	楊, 春; Yang, Chung; 増田, 清敬 他
Citation	北海道大学農経論叢, 61, 25-28
Issue Date	2005-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/11272
Type	departmental bulletin paper
File Information	61_p25-28.pdf



中国の国境地域における開発プロジェクトと農民意識

——遼寧省の「興辺富民プロジェクト」を事例として——

楊 春・増田清敬・山本康貴・出村克彦

A Development Project and People's Awareness in the Border Area in China : The case of "Xinbianfumin Project" in Liaoning Province

Chung YANG, Kiyotaka MASUDA, Yasutaka YAMAMOTO and Katsuhiko DEMURA

Summary

"Xinbianfumin project," which began in 2000, is a development project in the border area in China. The purposes of "Xinbianfumin project" are "fumin" (making people rich), "xingbian" (making the border activated), "qianguo" (making the country prosperous), and "mulin" (being friendly with the neighboring country). This project aims to develop the border area by attracting more economic investment and economic support. This study analyzes people's awareness involved with this project in the border area in China.

1. はじめに

現在、中国では、東部沿海地域と西部地域との経済格差解消を主な目的とした西部大開発が推進されている(註1)。西部大開発は、財政資金の重点傾斜投入、インフラと法制整備による投資環境改善、外資受け入れ領域の拡大、科学技術教育の拡充と人材育成等の政策に基づいており、当面は資源エネルギーとも関連した交通輸送インフラによる基盤整備が進められている(日中経済協会〔2〕)。

しかし、西部地域と同様に厳しい自然条件、貧困、脆弱なインフラ、教育、医療、文化、衛生条件の劣悪さ等の諸問題を有するものの、西部地域に属さない中国国境地域が、西部大開発の対象外となった。そこで、2000年から国家民族事務委員会の提唱によって、国境地域を対象とし、インフラ整備や地域の産業育成等による発展を意図した「興辺富民プロジェクト」が始まった。

本稿では、中国国境地域において、「興辺富民プロジェクト」に関連した人々の意識を分析することを課題とする。具体的には、遼寧省丹東市の

「興辺富民プロジェクト」から、栗の品種改良が実施されている寛甸満族自治県古楼子郷砬子沟村を事例対象とする。調査地である砬子沟村が属する寛甸満族自治県古楼子郷は、「丹東市における栗の第一郷」と呼称され、郷政府からの聞き取り調査によると、砬子沟村の栗の半分以上が日本に輸出される等、日本との深い関係がある。それゆえ、本稿では、この地域を事例地として選択した。

2. 「興辺富民プロジェクト」の概要

1) 背景と目的

中国国境地域は、西部地域と同様に社会的、経済的發展が遅れている地域であり、東部沿海地域との経済格差が広がりつつある。そこで、2000年に国家民族事務委員会は、早期に国境地域を發展させ、人民を富裕にするために、「興辺富民プロジェクト」の実施を提唱した(註2)。ここで、「興辺富民プロジェクト」は、西部大開発の関連政策として位置付けられた。

「興辺富民プロジェクト」の目的は、「富民(民を豊かにし)、興辺(国境を活性化し)、強国(国を豊かにし)、睦隣(隣国との友好を深め

る)である。具体的には、経済的な投資と支援を増大させることで、国境地域を発展させることを意図し、それによって国境地域の少数民族を貧困から脱出させ、富裕にすることである。また、発展に際して、一層の愛国主義の感情を増大させ、民族間の団結を強めることも意図されている。その骨子は、衣食問題の解決による貧困扶助、インフラ施設の建設、地域の産業育成、周辺地域との貿易による対外開放、義務教育の普及、少数民族の文化施設建設、生態環境保全等である。

2) 対象地域

民族団結雑誌社〔1〕によると、1998年現在での「興辺富民プロジェクト」の対象地域は、135の県、旗、市、市直轄区で構成され、約1,500の郷鎮と約12,000の村民委員会を有している。これらのうち、103県は西部大開発の対象地域に属しており、5県は西部地域に属しなくても西部大開発が行われている(註3)。

対象地域の面積は180万 km²であり、中国全体の18.8%を占める。そのうち、耕地は463万 ha、草地は8,660万 haである。人口は2,100万人であり、そのうち少数民族人口は1,056万人であり、全体の50%を占める。また、農村人口は、1,300万人であり、全体の62%を占める。対象地域は少数民族地域であり、かつ、農村地域である。

対象地域のGDPは826億元(1人当たりGDP 3,754元)、外資利用額は9,720万ドル、財政収入は43億元、財政支出は99億元である。なお、対象地域の人口、GDP、外資利用額、財政収入、財政支出は、中国全体に対していずれも1%に満たない。対象地域は中国全体に対して貧困であり、財政的にも大幅な赤字となっている。

3. 「興辺富民プロジェクト」と農民意識

1) 砬子沟村の概要

遼寧省丹東市に属する寛甸満族自治県古楼子郷砬子沟村は、鴨緑江沿岸の北朝鮮国境に位置する少数民族地域である。砬子沟村からの聞き取り調査(2003年9月)によると、人口1,327人、農家戸数347戸であり(註4)、耕地面積は1,117畝、1人当たり耕地面積0.84畝である(註5)。

表1 アンケートの回答者属性(人)

(a) 年齢			
区分	男性	女性	合計
25歳以下	7	2	9
26～35歳	12	5	17
36～45歳	43	8	51
46～60歳	12	—	12
61歳以上	2	—	2
合計	76	15	91
(b) 学歴			
区分	男性	女性	合計
小学校以下	27	4	31
中学校	32	9	41
高校	15	2	17
短期大学	2	—	2
合計	76	15	91

2) データ

データは、2003年9月に実施した現地調査におけるアンケート調査によって収集した。アンケート調査の方法は、①筆者の聞き取りによるアンケート、②村長、村幹部を通じた農民へのアンケート配布と回収、③現地の中学校を通じた農民へのアンケート配布と回収の3ルートとした。総配布数は100通であり、配布方法の内訳は、①30通、②15通、③55通であった。回収数はそれぞれ①30通、②11通、③50通の合計91通であった。

回答者属性は、表1の通りである。回答者91名中、8割強が男性であり、男性の年齢は6割弱が36～45歳であった。学歴は、中学校以下のものが多くを占め、短期大学まで出ていたものは男性2人のみであった。

3) 砬子沟村における「興辺富民プロジェクト」

砬子沟村では、「興辺富民プロジェクト」として、接木による栗の品種改良が行われている(註6)。砬子沟村が属する古楼子郷政府は、栗の品種改良について、栗の生産技術指導や加工工場の建設、新品種の導入と農民への提供等の取り組みを行っているが、ここでは、砬子沟村において行われている接木による栗の品種改良に限定する。

聞き取り調査によると、栗を栽培している農家のうち、およそ2/3の農民が栗の品種改良を行っている。従来の品種は、低収量、低品質、低

価格であり、収入増大のためには、栗の品種改良を行う必要がある。しかし、残りの1/3の農民は品種改良を行っておらず、その理由として以下の点がある。

第1に、栗の品種改良（接木）には労働力が必要である点である。家族労働力のみでは対応することが困難であり、人を雇用するための資金も不足している。第2に、接木に必要な苗木を購入する資金が不足している点である。しかし、資金の貸付を受けることは困難である。なぜならば、農民にとって、抵当として入れられるものが土地以外にないが、中国では、土地は国家の所有物であり、それをもって資金貸付を受けることはできないからである。その他に品種改良を行わなかった理由として、新品种の糖度が低いので輸出には向いていないのではないかとといった販路への不安等がある。

4) 農民意識の分析

表2は、学習の必要性についての回答である。技術の学習が約6割と最も高くなっている。表3は、新技術普及への対応についての回答である。積極的に対応する、または他人の行動を見てから対応する農民は、全体の9割以上に達している。これらのことから、農民は新技術の導入に高い関心を持っていることがわかる。また、表4は、希望する農業技術サービス方式についての回答である。新技術の導入における具体的な農業技術サービスとしては、優良品種の提供が4割以上、模範事例の紹介が3割弱を占めている（註7）。

表5は、農産物の生産と販売の志向についての回答である。4割以上の農民が自身で生産、販売を行いたいと考えている一方で、5割以上の農民が生産、販売に関して政府の何らかの関与を求めている。

表6は、低所得が改善されない原因についての回答である。栗の品種改良を行う際に資金不足が問題であることは前述したが、やはり資金不足の問題が農民意識としても確認でき、技術導入における知識不足の問題も確認できる。また、表7は、最大の関心事項についての回答であり、土地の配分調整への関心が最も高い。これは、アンケート調査において、全員が土地を抵当として資金貸付

表2 学習の必要性

回答	人数（人）	割合
技術	57	62.6%
法律	15	16.5%
政策	14	15.4%
その他	5	5.5%

表3 新技術普及への対応

回答	人数（人）	割合
積極的に対応	50	55.0%
他人の行動を見てから対応	33	36.3%
対応しない	4	4.4%
その他	4	4.4%

表4 希望する農業技術サービス方式

回答	人数（人）	割合
優良品種の提供	38	41.8%
模範事例の紹介	25	27.5%
普及教室の開催	13	14.3%
実地指導	13	14.3%
その他	2	2.2%

表5 農産物の生産と販売の志向

回答	人数（人）	割合
生産・販売のどちらかに政府が関与	47	51.6%
生産・販売ともに農民自身が実施	39	42.9%
その他	5	5.5%

表6 低所得が改善されない原因

回答	人数（人）	割合
資金が不足しているから	34	37.4%
技術が不足しているから	19	20.9%
情報が不足しているから	12	13.2%
縁故権力者がいないから	10	11.0%
自身の努力が不足しているから	8	8.8%
その他	8	8.8%

表7 最大の関心事項

回答	人数（人）	割合
土地の配分調整	32	35.2%
村財政の情報開示	23	25.3%
村長選挙	18	19.8%
その他	18	19.8%

を受けることに賛成していることに関係すると考えられる。しかし、前述の通り、中国では、土地は国家の所有物であり、それをもって資金貸付を受けることはできないことが制約となっている。

以上のことから、粟の品種改良の実施において、労働力不足、資金不足、技術不足に直面している農民に対し、政府は、農民の自主性を尊重しつつも、十分な人的・金銭的支援を行う必要があることが示唆された。

4. おわりに

本稿では、中国国境地域において、「興辺富民プロジェクト」に関連した人々の意識を分析することを課題とした。具体的には、遼寧省丹東市の「興辺富民プロジェクト」から、粟の品種改良が実施されている寛甸満族自治県古楼子郷砬子沟村を事例対象とし、アンケート調査から人々の意識を分析した。

「興辺富民プロジェクト」は、経済的な投資と支援を増大させることで、国境地域を発展させることを意図し、それによって国境地域の少数民族を貧困から脱出させ、富裕にすることを目的としている。本稿の事例地である遼寧省丹東市寛甸満族自治県古楼子郷砬子沟村においては、「興辺富民プロジェクト」として粟の品種改良が行われていた。

分析の結果、以下のことが明らかになった。砬子沟村におけるアンケート調査による農民意識の分析から、粟の品種改良の実施において、労働力不足、資金不足、技術不足に直面している農民に対し、政府は、農民の自主性を尊重しつつも、十分な人的・金銭的支援を行う必要があることが示唆された。

本稿は、アンケート調査による1次的接近に留まったが、「興辺富民プロジェクト」に関する詳細な分析は今後の課題である。

(註1) 西部大開発については、詳しくは日中経済協会〔2〕、西部大開発課題組編〔3〕等を参照。

(註2) 以下の本節の「興辺富民プロジェクト」に関する記述は、民族団結雑誌社〔1〕、丹東市興辺富民領導小組弁公室〔4〕を参照。

(註3) 残りの27県は、2001年9月に國務院西部開発

弁公室に対して、「東北三省の27国境県における西部大開発優遇政策を享受することについての公文」を申請したが、許可はまだ下りていない(2003年9月現在)。この27県の中に本稿の事例地である砬子沟村が属する寛甸満族自治県がある。

(註4) 実際に耕作する農家はその多くを占めるが、そのうち80戸強は耕作せず、農業以外の商工業等で生計を立てている。

(註5) 1畝は約6.67a(1ha=15畝)である。

(註6) 遼寧省丹東市は、鴨緑江沿岸の北朝鮮国境に位置する国境都市で、全国最大の満族居住地域であること等から少数民族地域でもある。砬子沟村の粟の品種改良は、遼寧省丹東市の「興辺富民プロジェクト」に基づいている。丹東市興辺富民領導小組弁公室〔4〕によると、丹東市の「興辺富民プロジェクト」は、国境少数民族地域における貧困の除去、インフラ整備、特色ある産業の育成、対外開放、教育水準の向上、生態環境改善と持続可能な発展の実現等を意図している。砬子沟村が属する寛甸満族自治県では、粟生産が盛んであることから、丹東市の「興辺富民プロジェクト」における特色ある産業の育成として粟の品種改良が行われている。

(註7) しかし、アンケート調査によると、技術を実際に学習する場合、約9割の農民が学習する場所がないと回答している。

引用文献

- 〔1〕民族団結雑誌社「興辺富民行動信息网」, In <http://www.56-china.com.cn/zengfu/xdgy.htm> (中文)。
- 〔2〕日中経済協会『中国の政治経済動向 新世紀のフロンティアを拓く—「西部大開発」の戦略と試練—』, 日中経済協会, 2001。
- 〔3〕西部大開発課題組編『中国西部大開発指南』, 吉林文史出版社, 2000 (中文)。
- 〔4〕丹東市興辺富民領導小組弁公室『丹東“興辺富民行動”』, 丹東市興辺富民領導小組弁公室, 2000 (中文)。